

一般質問

「ふれあいバス」の開設で
活力ある希望のまちづくりを

内田 三郎議員

内田三郎議員 本町は国道三路線をはじめ、県道・主要地方道が交差する北薩地方の要衝であり、町は東西に十二キロ、南北に二〇キロと広く、面積は一四五平方キロメートルである。総人口約一万七、八〇〇人のうち、六十五歳以上が五、四八〇人、高齢化率三〇割となっており、そのうち八〇歳以上は二六割、一、四三〇人である。交通機関利用状況調査によると、このなかで自家用車五二割、徒歩十七割、うち電動車一〇九台、単車・自転車六割とあり、バス利用は七・七割、四六〇人となっている。主要路線はバスが運行されているものの、時間帯や運行回数、運行経路、バス停の關係

で町内利用が少ない。最近、高齢者の交通事故が多発し、運転免許証の返上も家族で心配され進められている。高齢者のなかには、足腰が弱り歩行の不自由な方々が多く、大変痛ましかぎりである。戦中戦後をとお国のためと食べるものも惜しんで働き続け、子供たちの養育に励まれ、今日の豊かな日本社会の礎を築かれた方々である。高齢福祉の事務事業が種々展開されているが、少子高齢化進展の方向性から保健福祉政策において国は高齢者一部負担が増える方向転換にあることは、まことに忍びがたいことである。本町でも一部の地域については町費負担で委託されているところだが、また、本年度は盈進小学校から校野小学校特認校制度として一家族一〇万円の見送り支給がある。



隣の薩摩町で運行されている「すこやか巡回バス」（薩摩町立診療所前）

れあいバス」運行について、私は今回で三回目の質問である。昨年七月の「議員と女性団体との意見交換会」でも、女性団体から町内バス運行について強い要望があった。特に、商工会の電話利用の買い物支援事業もあるが、ショッピングによる脳の活性化こそ

健康づくりに役立つとのことであった。本町は中心市街地活性化事業の取り組みが進められているが、川内市では中心市街地活性化事業の一環として、十二年八月から市街地巡回バスを運行し、好評を得て今年から全地域に一〇〇円と二〇〇円料金の市内循環バ

スとして、流動人口で経済波及効果、行政サービスとして運賃の地域間格差の解消とある。

部内では類似の事業が薩摩町、都答院町、入来町、薩摩町で実施されている。部内のこれらの町の財政力指数や地方債（借金）の一人あたり残高を比較しても本町は優位にある。早急に開設に向けて取り進むべきではないか。所見を伺う。

「早く」を目標に
取り組む

北村町長 極めて重要な問題であると認識している。庁舎内で交通運輸対策検討委員会を立ち上げて検討を始めたところである。委員会のなかで、実施に向けて機動的に、また、広域的観点からも研究・検討しながら取り組んでいきたい。本町は広域なので全地区一掃の立ち上げが望ましいが、出来ることから取り組みたい。小学校特認校や広域公園アクセス等は、優先して取り組む必要があると思う。